

「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」
グローバル展開プログラム最終評価結果表

課題	家族制度と男女共同参画に関する国際比較
研究テーマ名	国際比較可能データによる男女共同参画と家族の役割変化の多元的動学分析
研究代表者	樋口 美雄
所属機関・部局・職	慶應義塾大学・商学部 教授
研究成果の総合評点：B	
研究成果に係る所見	
<p>研究課題そのものが非常に重要なテーマであり、社会的にも的確な政策提言が求められている領域である。例えば、日米における育児休業法の整備の違いにより日本における女性の社会的貢献度が米国よりも高まっているが、育児休業後の女性は非正規雇用が多くなる傾向など、調査に基づく重要な指摘がなされている。しかし、実験調査等の研究計画の実施は限定的で仏とトルコでの活動が若干行われたに過ぎず、研究成果についても海外の査読付き雑誌への論文掲載が1本のみであり、多くの論文が研究者らの所属する紀要に掲載されている点は物足りないと言える。総合評価は十分とは言いきれないが、チーム全体としては一応の成果があったと言える。</p>	

※ 「研究成果の総合評点」に対する標語は下記の通り。

- S. 研究目的に照らして、期待以上の成果があった
- A. 研究目的に照らして、期待どおりの成果があった
- B. 研究目的に照らして、十分ではなかったが一応の成果があった
- C. 研究目的に照らして、十分な成果があったとは言い難い。